

1.調査目的等

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

全国学力・学習状況調査における標準化得点を国語100以上、数学100以上

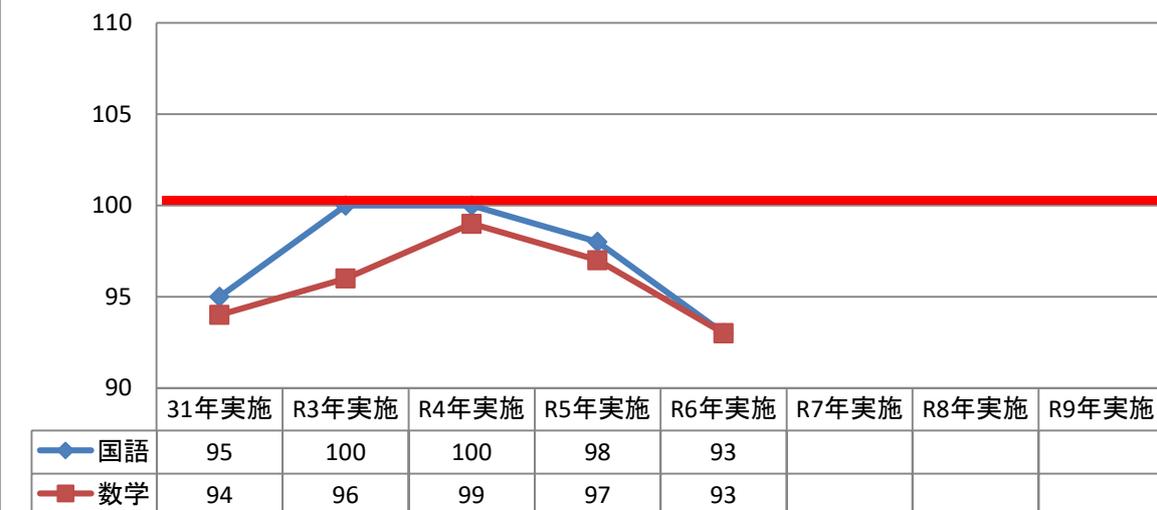
3.指標に向けての取組

- ・全教科での授業のグランドデザイン(めあて～振り返り)の徹底
- ・目的や具体的な内容、手立てを明確にして行う思考活動に重点を置いた書く活動(「書く活動ポイント9」を活用)を位置付けた授業
- ・基礎的・基本的な知識・技能を習得するための朝のモジュール学習と家庭学習の連動
- ・学級で目標を立て、目標に向かって全員で取り組む学習コンクール

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	93	93
嘉麻市	95	95
全国	100	100

推移



5.各学校における分析

【国語】

- ・CD層の生徒の割合が75.0%(全国比+29.7)
- ・知識・技能に関する問題の正答率45.8%(全国比-16.2)
- ・思考・判断・表現に関する問題の正答率41.1%(全国比-14.3)

【数学】

- ・CD層の生徒の割合が77.0%(全国比+34.0)
- ・知識・技能に関する問題の正答率44.3%(全国比-17.5)
- ・思考・判断・表現に関する問題の正答率10.5%(全国比-18.8)

両教科とも長文で問われている内容の把握や自分の考えを説明することができていない。その要因として、

- ①日常の授業において課題解決の見通しを持たないまま思考活動が行われている。
- ②単元テストや考査のテスト問題と全国学力・学習状況調査の問題内容が乖離している。

6.各学校における今後の取組

【授業づくり】

- ・授業のグランドデザイン(めあて～振り返り)に基づいた授業展開の実施
- ・CD層の生徒にも思考活動にスムーズに取り組めるような、ICTを効果的に活用した授業展開の工夫

- ・単元を意識した授業づくりの構築(単元を貫く課題の設定や評価規準の明確化)

【学力の基盤づくり】

- ・基礎的・基本的な知識・技能を習得するための朝のモジュール学習と家庭学習の連動
- ・生き方学習(学習の大切さや自己啓発等)に関する総合的な学習の時間及び学活の設定
- ・学級で目標を立て、目標に向かって全員で取り組む学習コンクールの設定

【家庭学習の充実】

- ・CD層を中心とした個別の家庭学習の取り組み方についての教育相談の実施
- ・校区で取り組むノーメディアチャレンジ週間の実施
- ・考査前の計画的な学習計画づくりの実施

【組織づくり】

- ・学力向上に向けた取組の検証や改善をするための、学力向上検証委員会の実施
- ・各教科での評価規準の明確化と細かな見取り(小テストや単元テスト等)の推進のための研修の実施
- ・同教科の教員による考査問題の検討や全国学力・学習状況調査問題の内容についての研修の実施

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した家庭学習を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。

◆学力向上検証委員会を開催し、単元や学習のまとまりを単位とした学習定着状況の把握と個に応じた指導の工夫を推奨する。そのために、単元に小テストや単元テストを位置付け、トリプル80を視点から評価を各学校において確実に実施するとともに、学力検証委員会において、授業づくりや学力向上の取組に対する組織的な評価・改善の在り方について指導する。